

授業科目	微生物学				実務家教員担当科目	-					
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期				
担当教員	目野 郁子										
授業概要	感染症は、病原体（細菌・ウイルス・真菌・原虫・プリオン）が原因となり生じる疾病である。これらの病原体の個々の性状について感染源、感染経路、病原因子、病態・臨床像について解説をする。また、疾病が生じるメカニズムや感染症の種類、感染症に対する治療法や予防法についても解説する。生体には病原体を含む非自己性の異物が侵入すると免疫システムが働く。講義ではこの免疫現象としての生体防御機構と免疫異常について解説する。										
授業形態	講義	授業方	法								
学生が達成すべき行動目標											
標準的 レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染および発症のメカニズムを説明できる。 2. 生体感染防御のしくみと自然免疫、獲得免疫（細胞性免疫・液性免疫）について説明できる。 3. アレルギーの分類を説明できる。また、関連するアレルギー疾患を少なくとも4つあげることができる。 4. 主な滅菌法と対象物、各種消毒薬の特徴と対象物について説明できる。 5. 感染症法、学校保健安全法、予防接種法について説明できる。 6. 教育現場における感染予防対策の取り組みについて説明できる。 7. 細菌・ウイルス感染症に対する主な化学療法薬の作用機序と副作用について説明できる。 8. 医療現場で問題となる病原体について、性状（感染源・感染経路・病原因子・病態・臨床像）説明できる。 										
理想的 レベル	標準的レベルに加え、 <ol style="list-style-type: none"> 1. 各項目について図書を用い知識を深め詳細に説明できる。 2. 病原微生物の性状と感染予防法を関係づけ説明できる。 										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）			備考							
試験	70%										
小テスト	20%										
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物											
その他	10%			授業への積極的な参加姿勢							
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリン グ	WE21502J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
授業で提示した「ポイントの整理」に従い、教科書と配布資料などを用いノートにまとめる。										4	
授業計画											

第1回	<p>テーマ：「微生物学」で学ぶ科目の概要について解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第2回	<p>テーマ：感染・発症のメカニズムと感染症の種類1</p> <p>病原体の種類、感染の成立と経過について解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第3回	<p>テーマ：感染・発症のメカニズムと種類2</p> <p>感染発生の三大要因（感染源・感染経路・宿主）について解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第4回	<p>テーマ：感染・発症のメカニズムと種類3</p> <p>新興・再興感染症、輸入感染症、人獣感染症、食中毒について解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第5回	<p>テーマ：免疫1・生体防御機構</p> <p>自然免疫と獲得免疫（液性免疫・細胞性免疫）の生体防御機構と感染防御免疫・腫瘍免疫について解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第6回	<p>テーマ：免疫2・免疫異常</p> <p>アレルギーの分類と疾病、免疫不全について解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第7回	<p>テーマ：感染症の予防と感染制御対策1</p> <p>滅菌法、消毒法、医療・教育現場における滅菌・消毒の実際について解説する。また、予防接種についても解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第8回	<p>テーマ：感染症の予防と感染制御対策2</p> <p>法律による感染症対策として感染症法、学校保健安全法について解説する。また、感染症発生動向調査についても解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第9回	<p>テーマ：感染症の治療と予防（目野 郁子）</p> <p>化学療法の原理（作用点・抗菌作用・副作用）と抗菌薬、抗ウイルス薬について解説する。また、免疫グロブリン療法について解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第10回	<p>テーマ：細菌感染症1</p> <p>グラム陽性球菌（ブドウ球菌など）、グラム陰性球菌（髄膜炎菌など）の性状と疾患について解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第11回	<p>テーマ：細菌感染症2</p> <p>グラム陰性桿菌（大腸菌など）、グラム陽性桿菌（破傷風菌など）、抗酸菌（結核菌など）、マイコプラズマ（肺炎マイコプラズマ）、クラミジア（トラコーマクラミジア）の性状と疾患について解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第12回	<p>テーマ：ウイルス感染症1</p> <p>DNA ウイルス（ヘルペスウイルス、B型肝炎ウイルスなど）の性状と疾患について解説する。</p>

	担当：目野郁子
第 13 回	<p>テーマ：ウイルス感染症 2</p> <p>RNA ウイルス(インフルエンザウイルスなど) の性状と疾患について解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第 14 回	<p>テーマ：真菌感染症、寄生虫（原虫）感染症</p> <p>真菌（カンジダなど）、原虫（トキソプラズマなど）の性状と疾患について解説する。</p> <p>担当：目野郁子</p>
第 15 回	<p>テーマ：まとめ</p> <p>担当：目野郁子</p>
テキスト	<p>わかる身につく病原体・感染・免疫 [南山堂]</p> <p>配布資料</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	データベース：朝日新聞クロスサーチ、CiNii Research、Google Scholar
課題に対するフィードバックの方法	小テストについては、問題の解説を行い成績を個別に知らせます。
学生へのメッセージ・コメント	<p>新聞、テレビ、雑誌などから「感染症」に関連した情報を集め、興味や関心をもち講義にのぞむ姿勢が必要です。</p> <p>提示された「ポイント整理」を、「教科書」「講義プリント」「参考書」を用いて自己学習によりまとめ、知識の整理を行なってください。</p>

